

# 岩手県奥州市で行った ワークショップ 地域情報紙を作ってみよう



2012年3月25日  
奥州市民ネット主催

# ワークショップ・プログラム

- 参加者を7～8名ごとのグループに分ける
- 全体に向けて救急担当医・救急隊員からそれぞれ5分程度のミニレクチャーをしてもらう
- グループ(救急医療・救急搬送のグループに分けておく)ごとに、ミニレクチャーから感じたことや疑問を出し、必要に応じて救急担当医・救急隊員に質問をする
- 付箋紙などを使いながら記事をまとめ、模造紙に書いて発表する

# ドクターから出された問題点 ～患者に関して～

- 不要不急の受診が見られる(コンビニ受診)
- 夜間祝祭日の電話の問い合わせで、予約変更や薬に関する質問をする
- 自分の病気や薬がわからない  
(患者、家族もわからない、お薬手帳がない)
- かかりつけ医を受診しない
- 救急度の高い重症患者から診察していると、クレームをつける

# ドクターから出された問題点 ～医療提供側について～

- 専門医師の不足
- 小児科、脳神経外科、眼科、皮膚科、呼吸器外科、放射線科は1人体制
- 産婦人科は、医師が不在
- 救急車が重なるとほかの患者の診察ができなくなる
- 入院ベッドが満床で入院できないことがある

記事にするために必要なことを  
救急のドクターに質問しながら  
まとめていきます。



自分が医療に対して思い描いていたことと、医療事情のの違いに戸惑った

病院に役割分担があることを初めて知った。  
相談窓口があるとよい

広報の工夫が必要。

若い人向け：携帯のサイトなど

高齢者向け：各地域で広報する



# 救急隊員から出された問題点

- 救急車の出場数は増えている  
平成19年から減少傾向、  
22年度から増加へ
- 高齢化⇒搬送の62.5%は65歳以上
- 中・軽症者の占める割合が大きい(77.6%)
- 受け入れ先がなかなか決まらない  
⇒患者からのクレームもある

こちらのグループは救急隊員の方の  
お話を聞きながら  
自分たちが伝えたいことを考えます



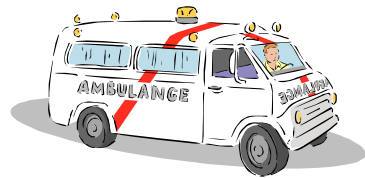


軽症患者の搬送が、全体の4分の1だという事実をもっと広報すべき

携帯電話使用時の注意点についてアドバイスが必要

救急車を利用する人の知識が足りないことが問題

病院が疲弊していることについて知らない人が多い  
回覧板などで地域にもっと知らせるべき



伝えたいことを書いた紙を  
同じような内容のもので  
グループにしていきます。



模造紙に書き込んでいきます。



あと10分  
ですよ～

# 発表会



# 救急医療のかかり方

- お医者さん、看護師さんたちがとても忙しい中で治療をしてくださっている
- 家族が、すぐに医療機関に行くべきか、様子を見ても大丈夫なのか、判断ができるとよい
- 状態の見極め方を勉強しよう
- 電話相談を活用しよう



# 救急車の適正利用

- 軽症での利用はいけないと言われるけれど
- 高齢者、特に一人暮らしの方は、自分の様子がいつもと違くと、とても不安になる
- 不安になった時に、相談できる人がいれば、救急車を呼ぶ前に安心できるかもしれない
- 地域の助け合いが大切！



# アドバイザーの感想 ～救急医～

今日の皆さんの話を伺い、  
自分たちが思っていたより救急医療の現状についてあまりよく知られていないと感じました。  
もっと皆さんとの話し合いの機会を持つことが必要です。  
いい機会を提供していただきました。

# アドバイザーの感想 ～救急隊員～

今まで消防署から積極的に市民に呼び掛ける  
ということが

足りなかったのではないかと感じました。

こちらが思っていたより実情については知られ  
ていなかったので、

積極的な宣伝が必要です。

職場で話し合いたいと思います。



# ワークショップの意義

- 住民...現場の実情を知ることができる
- 専門機関...今まで、現場の実情が地域にどのように伝わっていたかを知ることができる。
- 住民が専門機関の実情を伝える中で、
  - ①わかりやすい表現方法におきかえる
  - ②付帯して伝えたほうが良い内容を加える⇒さらにわかりやすい情報になる  
⇒住民の行動変容や意識改革にプラス